

銅相場トレンド予測はベア、ブル拮抗

為替は円安く横バイの予測

【第64回COMC声明】

【概況】

- ① 電気銅 建値予測 690～740円
- ② 銅相場のトレンド
ベアブル (ブル強気 2 ベア弱気 2 ニュートラル0)
- ③ LME銅セツル予測 5756～6023ドル
- ④ 為替トレンド予測
円安～横バイ (円高 2 安 2 変わらず0)
- ⑤ ドル円予測(TTM) 112.33～115.12円

三月前半は、トランプ大統領による発言を受けて、政権による減税が米景気や企業業績を押し上げるの期待が強まったことからドル高が進んだことや、一月の中国の自動車

以上の意見が非常によく聞かれた。
Aについては
ストの終結に関して予測は不能だが過去の例からすれば月内終息の可能性が高いのでは？米国の利上げ時期に関してはイエレンFRB議長がシカゴの講演で、次回会合で追加の政策金利の調節が適切か判断することになる」と述べ、月内の利上げを検討する方針を明言した。同氏は「経済指標が想定通りであれば、緩やかな利上げが適切だ」とも表明したことから月内利上げの可能性が高いのではないか？

Bについては
開催日に五日に李克強首相は政府活動報告で、二〇一七年の実質国内総生産(GDP)成長率の目標を前年より事実上引き下げ「六・五%前後」とした。成長目標の引き下げは三年連続。成長鈍化を容認し、構造改革を進める。と述べたことから 景気縮小懸念が台頭するのではないか？

これらを踏まえ、当委員会としては、ベアく横ばいの見通しを立てた。
ストが長期化し、FRBの利上げも先送りされ、全入代で景気拡大政策的な発言が出た場合、六、〇五〇ドル附近。いずれの場合も五、五〇〇ドル付近。両条件が揃わなかった場合現状からもう一段安の五、七〇〇ドル付近まで下落するとの予想。

販売台数は前年比〇・二%増の二五二万台で昨年二月以来の低水準だったことなどのマイナスマaterialもあつたが、チリのエスコンデヤ銅鉱山でストライキが長期化している事、米フリーポーター社が、銅精鉱の禁輸となつているインドネシアで、二月半ばまでに新たな輸出の認証を受けられなければならない問題で政府との交渉が長引いている事を好感しLME銅相場はUP。二月十五日時点で六、一四五(セツル)と月初価格より二八八ドルUPの前半締めとなった。
後半は、チリ・エスコンデヤ鉱山で二十日に政府の仲介を通じて会社側(BHPピリト)と労働組合が協議を行ったものの物別れに終わったこと、大幅減産となつているインドネシアのグラスベルグ鉱山を運営する米フリーポーター社は銅精鉱の輸出が止められていることとで政府に対して国際仲裁や損害賠償を求められる可能性を示唆していることなどのプラス材料もあつたが、中国高官が不動産税の導入を示唆した事、政府発表の二月の中国製造業PMIは五・一・六に上昇、予想の五・一・一を上回る。非製造業PMIは五・四・二に低下したことを嫌気しDOWN。三月二日現在で、後半スタート価格から五ドルDOWNの六、〇四〇ドル。銅建値七二万円のスタート。

【所感】

今後の動向であるが、今回のCOMCにおいては、

- A 世界二大銅鉱山のストの終結時期及び米国の利上げ時期
- B 中国 全入代の動向

議長	橋本健一郎(橋本アルミ)	大阪
委員	荒井 義明(荒井明商店)	東京
	棚町 祐次(Ｒユバース)	東京
	角井聡一郎(角井地銅商店)	京都
~~~~~		
◇KLTMTず相場		
八日	一九・二五〇	米ドル
	四七	トン
七日	一九・三〇〇	米ドル
	一四	トン
◇東工取(八日前引、限月四月)		
金	四、四四七円	
銀	六三・八〇	
白金	三、五二二円	
パラジウム	出 来 ず	

以上